

令和5年度 第2回紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事録要旨

【開催日時】 令和5年11月6日（月） 13時24分から14時35分まで

【開催場所】 紀の川市役所 本庁3階 庁議室

【出席者】

○紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会（委員8名内6名出席）

仁藤委員（近畿大学生物理工学部地域交流センター センター長）

野村委員（紀の川市立地企業連絡協議会 会長）

阪口委員（和歌山県 那賀振興局長）

川口委員（株式会社日本政策金融公庫和歌山支店 支店長）

上野山委員（和歌山公共職業安定所 所長）

山中委員（紀の川市自治連絡協議会 会長）

○事務局（企画部 企画経営課）（4名）

角企画部長、栗本企画部次長兼課長、辻副主任、森本主事

○傍聴人（1名）

那賀振興局 地域課：白井課長

【欠席委員】

中村委員（株式会社和歌山放送 代表取締役社長）

赤井委員（紀の里農業協同組合総合企画部 部長）

【会議の概要】

1. 開会（司会：栗本次長）
2. 挨拶（仁藤会長）
3. 令和5年度上半期における人口動態について（説明：事務局）
 - ・令和4年度は過去最大の自然減であったが、合併して初めて社会増となった。
 - ・令和5年度上半期において、昨年度と同様の傾向が続いており、自然減ではあるが、社会増がみられる。
 - ・旧町別人口では、打田地区（旧打田町）のみが人口増加している。

4. 議題

○議長（仁藤会長）

- ・「会議を公開」するために簡潔に取りまとめた議事録の公開の承諾
- ・委員の過半数以上が出席しているため、会議が成立していることを報告

（１）紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂の方向性について（説明：事務局）

資料①に沿って改訂の方向性について説明する。

【質疑】

委 員：計画期間の延長とは、最終的に長期総合計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略のサイクルを合わせるという認識か。

事務局：そのとおり。重点的な施策の一層の推進を図るため、同じサイクルにすることを提案させていただいた。

委 員：本来なら今年度末で計画期間が終了する予定であると思うが、期間を延長することでデメリットやリスクは生じないのか。

事務局：長期総合計画と総合戦略のサイクルが合致していないことで、一体的に施策を押し出し難しいのではと考えている。

委 員：今回の軽微な改訂というのは、事業を補充するというイメージか。

事務局：その通り。現在の総合戦略における各基本目標や基本的方向性などの項目を変更するというものではなく、記載事項の追加や修正という認識である。

委 員：長期総合計画と総合戦略のサイクルを合わせることで、結果的に内容が同じようなものが２つになるのではないか。

事務局：国のデジタル田園都市国家構想戦略に基づいた地方版総合戦略の改訂にあたっては、一体化することも改訂の方向性として認めている。しかし、紀の川市においては、別計画という位置づけで抜本的な改訂は考えている。

事務局：長期総合計画は理念的に掲げているもので、現在の総合戦略は人口減少対策に特化したものと認識している。国のデジタル田園都市国家構想総合戦略において、デジタルの要素を加えるという流れの中で、当市もデジタルに特化した施策を追記していければと考えている。

会 長：改訂の方向性について、事務局案を認めるということで良いか。（一同了）

（２）紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗について（説明：事務局）

基本目標評価シートを資料（資料②－１）とし、各基本目標の「数値目標の状況」・「ＫＰＩ（重要業績評価指標）の状況」を中心に、数値の分析結果や進捗状況を説明する。

また、委員からいただいた意見を踏まえた「審議会による検証結果」（案）について説明を行い、追記・修正、質疑等の審議を求める。

【質疑】

基本目標①

委員：意見となるが、各 KPI において既に達成している部分については上方修正した目標設定をするべきではないか。

事務局：次年度の改訂の中で KPI の数値の修正も検討する。

委員：特に創業支援補助金の交付件数をみると既に目標値を超えており、良い流れが起きていると思うので、この流れを止めないようをお願いしたい。

委員：「くるみん」認定事業者数の KPI の実績が「0」のままである。厚生労働省において認定をするものであり、なかなか件数を増やすことは難しいと感じる。紀の川市で、何かアクションを起こしているのか。

事務局：ご意見のとおり認定件数の増加に向けては難しさを感じている。もし、企業を誘導していくために必要な視点があればご教示いただきたい。

委員：自治体側から企業を誘導するのは難しいと感じる。和歌山労働局と相談・連携はできるのかと思う。

委員：農業産出額は増えているが、経営体数は減っている。この状態を考えると、経営規模は大きくなっていることが推測できる。その中で、紀の川市は、新規就農者を増やそうとしている。この状況が継続されたとしたら、市の農業にどのような影響が出るのかを分析したうえで、次の施策の検討が必要ではないか。

委員：農業生産において法人化の進展を目指しているならば、法人化に関する KPI を設定するのはどうか。認定農業者数が減ったとしても、法人数が増加することで雇用者や耕地面積が確保されると思う。認定農業者数だけにフォーカスすると減少しているのでネガティブなイメージとなるが、もし効率的な法人経営が増えていたとなると、別の印象にならないか。

委員：移住者の方が就農し、6 次化商品を開発するなど特徴的な農業の展開がみられている。現在の紀の川市の農業には多様性がある。このような多様性について、新規就農者数以外で測ることができる指標があれば良いと思う。

事務局：紀の川市の農業に対する抜本的な将来へ向けたプランがあれば良いと考えている。現在、今後の方向性を定められるように検討をしている。

会長：紀の川市の農業の特徴である果樹や花などは品質での勝負になる。紀の川市の農産物は高品質であるというブランド力の育成などが必要になる。

基本目標②

特になし

基本目標③

会 長：学校教育をめぐる変化が激しいなか、紀の川市は GIGA スクールを円滑に運営できるように教員などへ県内トップクラスの支援を行っている。

委 員：出身地の小学校区が小規模であり、小学校と中学校が一体になった。校区外から児童生徒を受け入れしているそうだが、HP などを見る限りイメージは良いと感じている。

事務局：紀の川市にはないが、和歌山市内に小中一貫の義務教育学校の事例があることは知っている。紀の川市も学校再編が進捗しているが、小中一貫を想定したものではない。今後、小中一貫のメリット・デメリットなどを検討していく必要はあると感じている。

委 員：社会増しているが年少人口が減少しているのは、出生率などによる自然減が原因という理解でよいか。

事務局：その通り。

委 員：結婚ができずに跡取りがいない家も見られる。なかなか切り込むことが難しい事案である。

委 員：移住者に話を聞くと非常に紀の川市の暮らしに満足しているという話を聞く。人口減少時代であっても、世代に関係なく紀の川市には質の高い生活や教育があるというイメージを押し出したほうが良いのではないか。人口についての議論もあるが、質の高い暮らしに惹かれて人が集まるというモデルづくりが今後は重要になると考える。

会 長：住みやすいまちという抽象的な指標に左右されるより、しっかり質的な豊かさをアピールしていければと感じる。そして、他の部局にも是非この考えを展開して欲しい。

基本目標④

委 員：指標における「市民の割合」はどのように算出しているのか。

事務局：市民意識調査によるもので、一部の市民（1,500 人）に対するアンケートの結果。

委 員：「紀の川市に暮らし続けたいと思う市民の割合」の目標達成に向けて、KPI として設定している「自治会加入率」や「自治会やコミュニティ活動に参加した市民の割合」が連動するものかどうか疑問がある。指標の設定が難しい項目であるのは理解しているので意見として捉えて欲しい。

【全体を通して】

委 員：長期総合計画や総合戦略などの進捗は非常に重要である。市民にはどのように周知しているのか。このような人口や住みやすさといった議論を深めるためには市民参画が

必要だと思うが。

事務局：総合戦略の進捗状況について広報紙での広報はできていない。

事務局：長期総合計画に結びつくものとしては、決算時に事務事業単位で成果表を公開しており、施策評価も同じように公開はしている。直接的に市民向けの広報などはできていない。

委員：人口が増加している自治体では、市民は市の取組に興味を持っていると推測される。細かいところでなくていいので、大きな視点で情報を提供していくことも検討してみれば良いのではないか。

事務局：情報発信が弱いという部分については改善が必要であると認識している。情報発信を強化し、市民にまちづくりへの参画を促していきたいと考えている。

委員：全国的に人口が減少している中で紀の川市が社会増となっていることは、明るい話題ではあるが、産婦人科がないことは課題と感じている。地道に喫緊の課題を解決していくことで、もっと良いまちになると感じている。

事務局：今年度は産婦人科誘致に向けた補助金も用意しているが、まだ実績は出ていない。

委員：国レベルの問題として産婦人科医が少ない。また、医者の数も減っており、過疎地域における医療の問題も考えていかないといけない。

（３）その他

特になし。

○議長（仁藤会長）

- ・意見が集約できたため、今日の議題は終了とする。
- ・基本目標評価シートの「審議会による検証結果」については、本日の意見を踏まえ、事務局にて修正し、会長が確認したうえで、後日郵送する。（一同了）

５．閉会